

商船学科に変化の波



富山高専の学生らは練習船を使って実践的な技能を学ぶ

高専に任せる! 2018

第2部 陸海空の精鋭 ②

この日は富山高専等専門学校(高専)商船学科が年2回開くオープンキャンパス。参加者は学生らの案内で港内を1時間半航海した後、機関室や制御室を見学した。男子学生が「外航船の船員は1年のうち数カ月は船で生活し、残りは陸で休んでいる。ロマンがありますよ。初任給も陸上の仕事の倍ほどあります」と

日本海に面した富山県射水市は北陸きつての港一角に停泊した練習船「若潮丸」(231t)の船上では、県内外の中学生と保護者ら約40人が集まっていた。

▼海外から教員、英語力上げ
▼教材IT化、電子海図対応

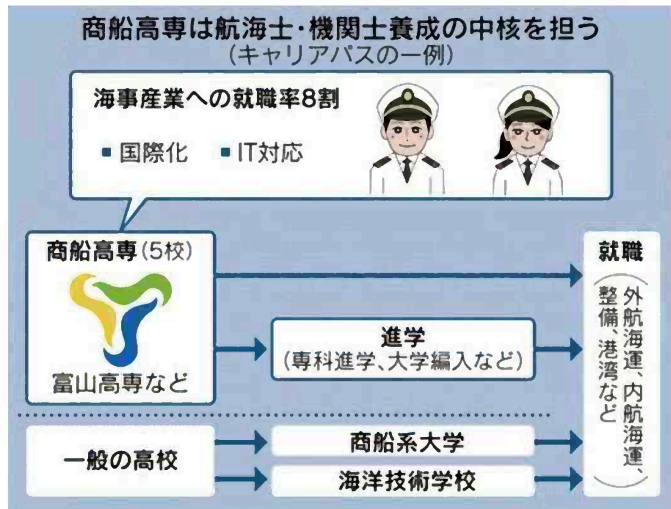
富山など全国5校 企業も育成後押し

説明すると、中学生から高専の中でも商船高専は海事人材を育てる教育機関。富山高専は日本海側で唯一の商船高専だ。この若潮丸を使った実習は、1年生では半年に1回程度だが、3年生後半からは多い時は週2回の頻度で実施している。

▼商船高専 航海士や機関士など海産業界に関わる人材育成を目指す。国内57を数える高等専門学校(高専)のうち5校あり、富山高専射水キャンパスの商船学科(富山県射水市)、鳥羽商船高専(三重県鳥羽市)、弓削商船高専(愛媛県上島町)、広島商船高専(広島県大崎上島町)・大島商船高専(山口県周防大島町)を商船高専と呼ぶ。



富山高専が所有する練習船「若潮丸」



倍率は、ここ数年は推薦も合わせて2倍台で安定している。ただ学生集めは順風満帆ではなかった。1990年代後半から2010年にかけては2倍を切る時期もあった。海産業界の動向が影響している。最盛期の1970年代には日本人の船員は約28万人を数えたが、海運不況を経て現在は4分の1。外航船員に限るとピーク時の25分の1だ。労働環境が厳しいイメージも手伝い、中学生の志願者数は低迷している。

一方、卒業生が一般企業に就職するケースも増えた。5商船高専の海産業界への就職率は、2000年代以降は6割程度で推移。大多数が海産業界に就いた時代からは考えられない状況だ。所

管の文部科学省からは15年に「船の維持費用もかさんでいる。海産業界への就職率が6割なら、定の商船学校から外国人教員も6割に減らせ」とプレッシャーがかかった。ハワイ・カウアイ島やシンガポールにある教育機関と連携したインターンシップも開始。現地では電子化に対応した数週間かけて学んだ実績を単位として認定する制度を導入した。学生の背で航海計画を立てるなど中を押し、「グローバルで働く意欲を向上させる狙いがあった」(山本教授)という。改革前に比べTOEIC(英語能力テスト)の点数も平均100点程度上がった。また、山本教授らは、業界も協力する。日本郵船は商船高専の希望者5つを5つの商船高専を自社で持つフィリピン専で共有し、互いに情報の交換して効果を高めた。大橋宏明・人事